

## 被 昇 天 追 憶

主任司祭 吉池 好高

わたしたちの教会はロックダウン状態で、主日のミサにも参加できない日々が続いています。このような状態に慣れてしまうことのないようにいたしましょう。主日のミサに与れなくても、何も感じなくなってしまうとすれば、わたしたちの信仰は根本的なところで病んでいるのです。生気を失ってしまっているのです。ミサはわたしたちカトリック信者の信仰の拠り所だからです。わたしたちは何のために、どのような理由から、日曜日の教会に通っているのでしょうか。どんな理由からにせよ、それが、わたしたちの信仰の姿だつたはずです。疲れた体を引きずるようにして通つたミサが、わたしたちの信仰を支えていたのです。ミサに通うことのできない今、日曜日の教会がロックダウン状態にある今、そのことを改めてかみしめたいと思います。「わたしたちにはミサが必要ですよ」。カトリック信者としてのわたしたちのそのような心の叫びが、天におられる御父のもとにとどきますように。わたしたちが信じている全能の父である神が、パンデミックの渦中にあるこの

地上に、新たないのちの希望の光をもたらしてくださいますように。

わたしたちの信仰が生気を失い、もはや祈れなくなってしまうときも、教会の母である聖母は、復活された御子イエス・キリストに、わたしたちのために訴えかけ、とりなしてくださいます。瀕死のわが子のために祈り続ける母マリアの願いを無視することがない、死者のうちから復活されたいのちの主キリストは、母の願いを必ず聴き入れてくださいます。聖母よ、大いなる耐えがたい苦しみと悲嘆の中にある、あなたの子らのために祈ってください。この悲しみの世にお生まれになられた神の御子を抱きとめられたあなたの胸に。十字架から降ろされた御子の体を抱きとめられたあなたの腕に。あなたの子らであるわたしたちの泣き声に気づいてください。この苦しみと嘆きのうちにあるあなたの子らを、その胸にしつかりと抱きとめてください。

御子の手を取って共に歩まれた聖母よ、今にも倒れそうなわたしたちの手を取ってください。